



2023年度教育課程特例校の教育課程実施状況についての 児童・保護者・学校の評価(2023年度学校評価より抜粋)

○児童学校評価アンケート集計結果と考察

総評

「5.とてもそう思う」「4.どちらかと言うとそう思う」を合わせ、9つ中8つの項目で9割以上の児童がポジティブな評価をしていました。来年度はすべての項目が9割以上となるよう、引き続き努力をして参りたいと存じます。

特に評価の高かった項目(95%以上)

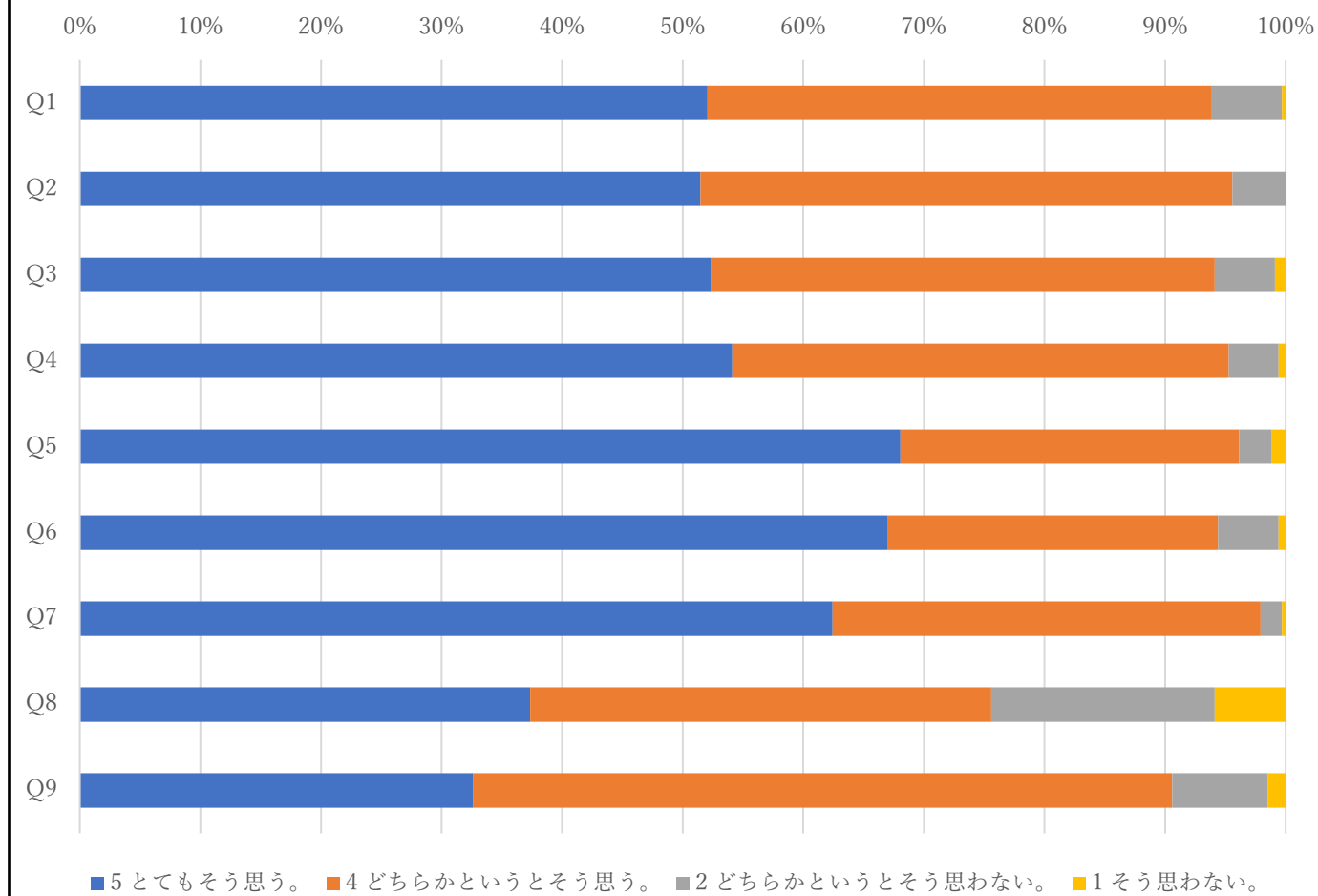
2023年度、95%以上だった項目は9つ中、4つでした。半数に近い項目で高い評価を得る結果となりました。

- ・「2. 探究以外の日本語でなされる授業中、学んでいることがよくわかり、学習することが楽しいですか。」の項目は96%の評価でした。こちらはStand Alone(教科単独)でなされるにほんごや算数の単元、宗教、高学年では家庭科が含まれます。この結果から、児童が学んでいる内容を理解し、楽しんで取り組んでいることがわかりました。
- ・「4. どちらの言語でも、探究の授業中、学んでいることがよくわかり、学習することが楽しいですか。」の項目につきましては、96%の児童から高評価を得ており、国際バカロレアのフレームワークを使い、探究する学校として大変うれしく思います。こちらも引き続き、児童が探究を楽しめるよう、様々な教科を横断し、できるだけ児童が生きる実社会に近い学びの環境を作るなど、授業を工夫し継続して努力して参りたいと存じます。
- ・「5. 先生は、探究の授業を工夫しながら教えてくださいますか。」は97%のポジティブな評価を得ました。児童がAgency(Voice, choice, ownership)を持ち、自ら問題解決に取り組むことができるよう、次年度も教員研修を行うなど、引き続き研鑽していきたいと存じます。
- ・「7. 学びに一生懸命取り組んでいますか。」は98%の高い評価で、児童が学びに真摯に取り組む様子が結果に反映されていました。児童が楽しんで学びを進めることのできる環境づくりを推し進めるとともに、知的好奇心を刺激され、仲間とともに学びを深めたり広げたりしていきけるよう、教師がファシリテーターとなって学びをサポートしていきたいと存じます。

8割未満の項目

- ・「8. 図書館へ行き、本を借りて読書を楽しんだり、学びに必要な資料を借りたりしますか。」は今年度76%でした。これは昨年79%から3ポイント、一昨年の82%から6ポイント下がっています。本校の図書館は、探究学習に必要な教材を取り揃えており、蔵書数が2万冊を超える素晴らしいコレクションを持っています。授業中だけでなく、休み時間にも児童が積極的に図書館を利用できるよう教員が声がけをするなど、児童がより図書館に親しみを持って活用できるように、工夫をしていきたいと存じます。

2023年度 探究およびバイリンガル教育について(児童)



《参考：児童アンケート項目(学校評価より抜粋)》

1. 授業中、学校での学びがよくわかり、学習することが楽しいですか。
2. 探究以外の日本語でなされる授業中、学んでいることがよくわかり、学習することが楽しいですか。
3. 探究以外の英語でなされる授業中、学んでいることがよくわかり、学習することが楽しいですか。
4. どちらの言語でも、探究の授業中、学んでいることがよくわかり、学習することが楽しいですか。
5. 先生は、探究の授業を工夫しながら教えてくれますか。
6. 先生は、勉強をわかるまでしっかり教えてくれますか。
7. 学びに一生懸命取り組んでいますか。
8. 図書館へ行き、本を借りて読書を楽しんだり、学びに必要な資料を借りたりしますか。
9. 10のラーナープロファイルを意識して活動できましたか。

○保護者様学校評価アンケート集計結果と考察

総評

全部の項目で「5.とてもそう思う」「4.どちらかと言うとそう思う」を合わせ、9つ中、8項目で9割以上、全ての項目で8割以上のポジティブな評価をいただきました。一昨年は2つの項目が8割に満たなかったのですが（両項目とも76%）、昨年度は全て80%を超える結果となり、今年度に至っては8項目も9割を超える評価をいただき、感謝申し上げます。引き続き、すべての項目で8割以上の評価をいただけるよう、継続して努力をして参りたいと存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

特に評価の高かった項目（95%以上）

- ・「9. 学校は授業参観日など、学校公開の日を適切に設け、保護者が学校の様子がよくわかるようにしている。」の項目について、一昨年は76%でしたが、昨年は90%、今年は98%の高評価をいただきました。2019年後半から始まりましたコロナ禍で、ご来校していただく機会が大幅に縮小しておりましたが、段階を経て元の学校生活に近づくことができました。2023年度においては、5月の連休明けにコロナ感染症が5類に引き下げとなり、ほぼコロナ禍以前の基準でご来校いただく機会を設けることができました。引き続き児童の様子が保護者の皆様に伝わるよう、ご来校いただく機会をしっかりと確保して行きたいと思っております。

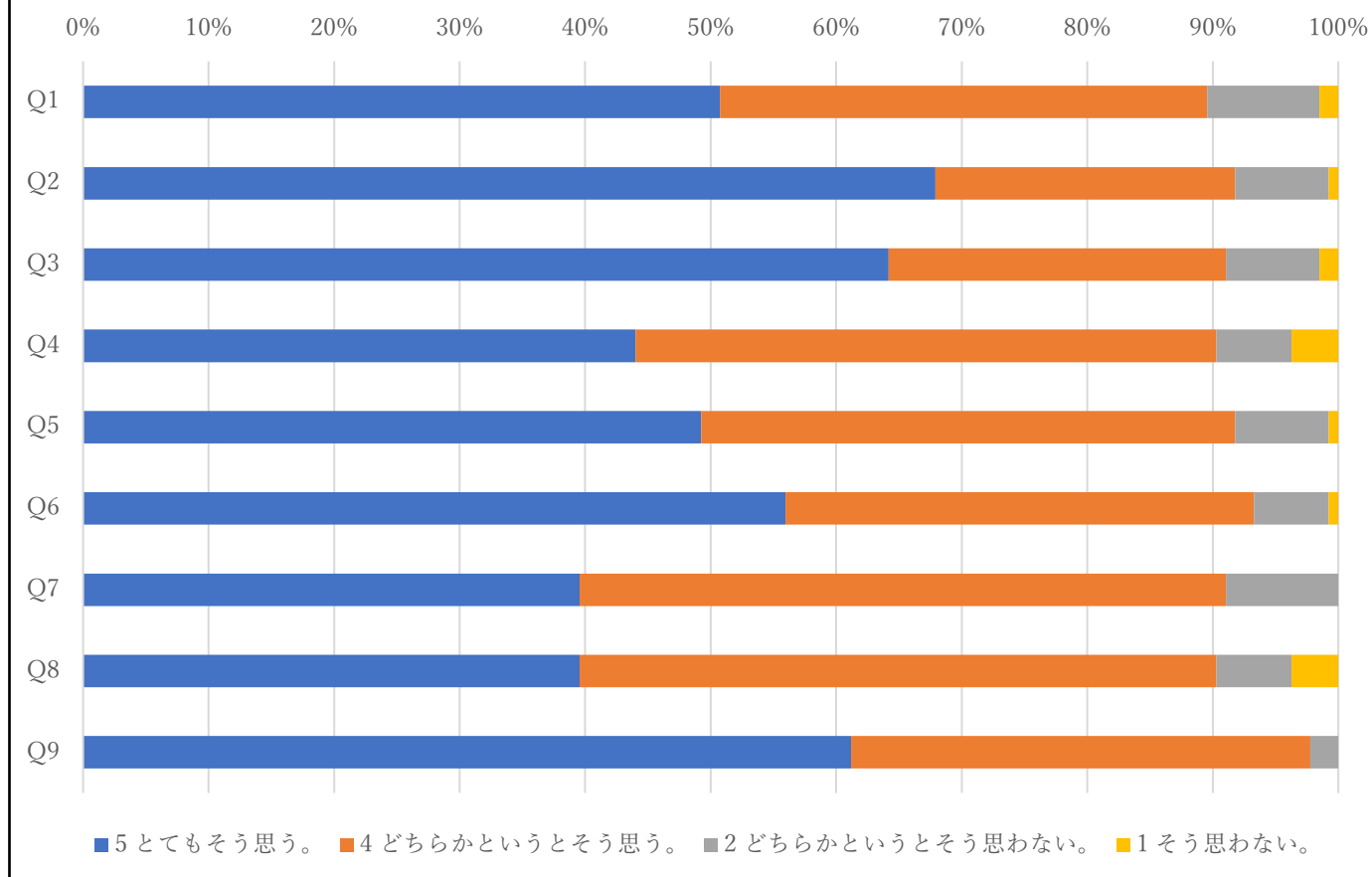
評価の高かった項目（90%以上）

- ・今回は上述の通り、1以外の全ての項目において90%以上の評価をいただきましたが、その中でも「6. 学校は、探究を通して、教え方の工夫をしながら独自の指導法により、子どもたちの学習意欲を育み、追究する力、認識する力など、未来を生きる考える力(Agency)を身につけさせている。」においては93%の評価をいただきました。本校は国際バカロレアのフレームワークを使い、探究をベースとして学びを進めております。児童が、身の回りで起こる様々な事柄について興味を持ち、自分の特技を生かして貢献したり、問題解決に取り組んだりすることを目指していますが、そのために実物を見て学び、自分の意見をしっかりと持てるよう引き続きサポートして参りたいと存じます。
- ・92%の評価をいただいたのが「2. 同志社国際学院初等部は、伸びやかで生き生きとした雰囲気を感じられる学校である。」と「5. 学校はバイリンガル校として、日英両言語の学習環境に力を入れ、言語バランスの取れた児童を育てている。」です（昨年度85%）。昨年度よりも高い評価をいただいておりますが、引き続き、同志社の「自主自律」の校風をベースにしながら、言語学習環境を整える努力をして参りたいと存じます。また、今年度もPearson English Benchmark Young Learners Test (EBYL)により、児童の4技能(Listening, Speaking, Writing, Reading)を客観的に測定いたします。これをもとに、個々の力を伸ばしていく一助にしたいと考えております。

昨年度8割未満だった項目の今年度の評価について

- ・今年度唯一9割に満たなかったのが、「1. 学校は異なった考えやものごとの違いを受け容れる幅広い心・やわらかい心を児童に育てている。」で、89%の評価でした。児童一人ひとりの個性を互いに認め、その良さを学びの場を出し合い、協同/協働して課題に取り組む活用を通じ、幅広いやわらかい心を育てていきたいと考えております。その中心としてLerner Profileをさらに活用していきたいと存じます。

2023年度 探究およびバイリンガル教育について(保護者)



《参考：2022年度保護者様アンケート項目(学校評価より抜粋)》

1. 学校は異なった考えやものごとの違いを受け容れる幅広い心・やわらかい心を児童に育てている。
2. 同志社国際学院初等部は、伸びやかで生き生きとした雰囲気の感じられる学校である。
3. 学校に行くのを、児童は心から楽しみにしている。
4. 学校は児童個々の様子をしっかりと見て、成長点や課題を伝えている。
5. 学校はバイリンガル校として、日英両言語の学習環境に力を入れ、言語バランスの取れた児童を育てている。
6. 学校は、探究を通して、教え方の工夫をしながら独自の指導法により、子どもたちの学習意欲を育み、追究する力、認識する力など、未来を生きる考える力(Agency)を身につけさせている。
7. 学校は、学年として身に着けるべき学習内容の定着に向け、丁寧な取り組みを行っている。
8. 学校は、保護者の思いをしっかりと受けとめ、子どもたちへの指導に生かしている。
9. 学校は授業参観日など、学校公開の日を適切に設け、保護者が学校の様子がよくわかるようにしている。